

デーリー東北



ネーティブスピーカーの講師から英語プレゼンテーションの方法を学ぶ参加者

八工大でプレゼンテーションセミナー



英語で研究内容を発表する 大学院生

八戸工業大は23日、八戸市の同大で英語プレゼンテーションセミナーを開いた。同大の大学院生や学生、学外の英語教育関係者ら約30人が参加。同大では5年ほど前から、大学院生が英語教育や資料の作り方を指導したほか、同大大学院生5人が英語で研究内容を発表した。

ネーティブスピーカーの
講師が効果的な説明方法
や資料の作り方を指導し
たほか、同大学院生5
人が英語で研究内容を発
表した。

協議会（東京）のオンライン授業を受けて英語スクリルを磨き、国際学会や学術交流で生かしていく。また、セミナーを毎年1回開き、大学院生が英語で発表する機会としている。

協議会（東京）のオンライン授業を受けて英語スクリルを磨き、国際学会や学術交流で生かしていく。また、セミナーを毎年1回開き、大学院生が英語で発表する機会としている。

今回のセミナーでは、同協議会のアンドリュー・リンチさんが英語プレゼンテーション・ワークショップを実施。「台本はできるだけシンプルにして、聴衆とアイコンタクトを取る」「スライドは内容を盛り込みすぎない」などとノウハウを伝

い」と意欲を見せる。同大の英語指導を担当する感性デザイン学部の岩見一郎教授は「大学院生が戸戸にいながら英語の勉強に励んでいることを学内、さらには学外の人にも認知してもらい、活動を広げていきたい」と述べた。(上條哲洋)

英語で発表。ポイントは 「ネーティブ講師」が指導

えた上で、「最も重要なのは自分のテーマについて熱意を持って話すこと」と呼びかけた。

※この記事・写真等は、デーリー東北新聞社の承諾を得て転載しています。